



白幸菱の小袖に打掛（上に羽織るきもの）、被衣をかぶり、將軍家の姫君は白地に蓬萊模様の御輿に乗って進みます。江戸城を出発し、目指すは嫁ぎ先で用意した「御守殿」と呼ばれる奥御殿で、「赤門」がその目印です。婚礼調度の多くは、事前にこの御守殿に運ばれました。長大な婚礼行列は、天兒と犬張子（厄除けの人形と犬形の箱）を乗せた「御召替御輿」、次いで「御貝桶」が先行します。貝桶は室町時代から嫁入りに際して第一の道具と考えられていました。



種姫の御輿



御貝桶



赤門

徳川種姫婚礼行列図
Wedding Procession of
Tokugawa Tanehime
山本養和筆
江戸時代・18～19世紀 A-9277

種姫（1765～94）は第10代將軍徳川家治の養女です。天明7年（1787）に徳川治宝との婚礼が行なわれ、種姫は江戸城から赤坂の紀州藩中屋敷まで豪華な行列とともに興入れました。本作はその様子を2巻に及ぶ長大な絵巻として描いています。



打掛 白地浮織幸菱模様
Formal Outer Kimono (Uchikake) with Floral Diamonds

江戸時代・19世紀 I-1402

本品は紀州藩第14代徳川茂承の正室、則子（1850～74）所用と伝われます。婚礼の際に着用した打掛で、裾襦に厚く綿を入れ、幸菱模様を、緯糸を浮かせて織り出しています。武家の婚礼の際には、一般にこうした白幸菱の打掛を着用したのちに、色直しが行なわれました。



幸菱模様



蘆蒔絵貝桶および合貝
Shell-Matching Game Set with Reeds

江戸時代・18世紀 神谷伝兵衛氏寄贈 H-1556

殻の裏側に和歌や絵を描いた二枚貝（合貝）を別々にして置き、もとの一組を引き当てる遊びを「貝覆（貝合せ）」といいます。合貝には蛤の殻が用いられ、その容器が貝桶です。もとの組み合わせ以外は合わないことから貞節の象徴とされ、婚礼調度の一つとしてとくに重要な位置を占めました。

女乗物

上層の武家女性が使用する乗物を女乗物といいます。屋形（乗用部分）の上部に長い担い棒を一本通し、前後で人が担いで使用します。出入口は狭いですが、引き戸を開けると屋根の一部を撥ね上げることができるようになっています。装飾は家の格によって違いがあり、総体黒漆塗に金蒔絵、内部を鮮やかな絵画で彩るものは、最高級品に属していました。「徳川種姫婚礼行列図」では、漆塗の女乗物は5～6人で担ぎ、「御召替御輿」として天兒、犬張子に乗せて先行する役割を担っています。



竹葵牡丹紋散蒔絵女乗物
Women's Palanquin with Peonies,
Bamboo, Wild-Ginger Crests,
and Diamonds

江戸時代・寛文4年（1664） H-3502

寛文4年、公卿の鷹司教平の娘信子（1651～1709）が、当時館林藩主であった徳川綱吉（のちの第5代將軍）のもとに嫁いだ際に誂えられた女乗物です。金の高蒔絵で竹を描いて両家の家紋を散らし、要所に金銅製の金具を打ち、内面には源氏絵を描いています。その重厚かつ華麗な装飾は、持ち主が高い身分であることを示しています。



特集 姫君婚礼につき — 蒔絵師総出の晴れ舞台

令和5年（2023）7月25日発行

執筆：猪熊兼樹、福島 修 撮影：藤瀬雄輔ほか 翻訳：足立奈緒子（以上、東京国立博物館）
デザイン・製作・印刷：アイワード 編集・発行：東京国立博物館 ©2023 東京国立博物館 Tokyo National Museum

特集 Thematic Exhibition

姫君婚礼につき

蒔絵師総出の晴れ舞台

On the Occasion of the Princess's Wedding
The Gala of Great Maki-e Masters

令和5年（2023）7月25日㊥～9月18日㊤

東京国立博物館 平成館企画展示室



●竹菱葵紋散蒔絵菌黒道具
および手水道具

嫁の乗る輿が婿の家に入ることから、嫁入りのことを「興入」と呼びます。御輿に乗った姫君が盛大な行列を引き連れて、絢爛豪華な調度とともにのぞむ婚礼の儀式は、江戸時代における將軍家や大名家にとって、一世一代の大イベントでした。

日本の婚姻形態は、中世に一つの転機を迎えます。平安時代に主流を占めた「婿入婚」が「嫁入婚」へと移行することで、女性がさまざまな道具を誂え、婿の家に携行する形式が習慣化しました。こうした婚礼調度は家の格にかかわるものとして重視され、戦国時代を中心に大規模化の道をたどり、江戸時代には調度類の種類が定型化するとともに最盛期を迎えました。多種多様な形をもつ道具類は高品質の装飾で統一する必要があり、製作に際しては多くの漆師や蒔絵師が一斉に動員されました。婚礼という儀式的晴れ舞台を演出するため、江戸の蒔絵は一大産業として発展することとなるのです。

本特集では、紀州徳川家第10代藩主治宝の娘豊姫（1800～45）所用と伝わる婚礼調度のほか、「白無垢」の打掛や貝桶など、江戸時代における上層武家の婚礼のすがたを紹介します。婚礼調度を通じて、統一した意匠と装飾が生み出す華麗な空間を実感いただければと思います。

During the Edo period (1603–1868), wedding ceremonies held great significance for the families of samurai lords. Wedding dowries played an important role, as their quality directly reflected the status of the bride's family. Often produced as sets, these wedding dowries evoke a sense of dignity with their unified designs in maki-e — a technique that uses lacquer in combination with gold powder and other materials.

Many artisans participated in the production of these dowries, leading to the development of maki-e into a major industry during the Edo period. This exhibition provides a glimpse into the weddings of elite samurai lords during this time.

豊姫の 婚礼調度

東京国立博物館の
「豊姫婚礼調度」は、豊姫が文化13年（1816）
に第11代将軍徳川家斉の七男斉順と結婚した際の婚礼調度で
す。化粧道具、手水道具、遊戯道具など35件が伝わっていますが、分散
してしまったものもあり、本来はもっと大規模なセットであったと考えら
れます。この蒔絵の装飾は、梨子地に竹菱文を表わして、徳川家の家紋で
ある葵紋を配する意匠を基調としています。



提重 内容品



● 提重 Portable Dining Set

提重をつけて持ち運びができるようにした重箱。花見など
の行楽や、観劇の際に用いられました。錫製瓶子や小盆、
金銀で一对となる蒔絵盃などが付属します。

行楽と技芸



● 双六盤 Sugoroku Game Set

双六は二人で黒白の駒を使い、2個の賽を振って駒を進める遊
びです。平安時代には貴賤を問わず流行し、江戸時代に入ると
婚礼調度として、碁盤、将棋盤とともに双六盤が誂えられまし
た。材質は鉄刀木で、盤面には銀の筋で升目を引き、
側面に蒔絵を施しています。付属の駒は
象牙製、水牛角製です。



● 旅簪箱 Traveler's Cosmetic Box

旅先で使用する携帯用の化粧道
具入れ。油桶や白粉刷毛などの
化粧道具に加え、箱の引出には
硯箱も収められています。

化粧道具

● 竹菱葵紋散蒔絵化粧道具 ほか

Cosmetic Set with Bamboo, Wild-Ginger Crests, and Diamonds

鏡台、櫛台、髻台（頭髪用道具を置く台）、鏡立、櫛箱、乱箱（手回り品を入れる蓋のない箱）、眉作箱（眉化粧の道具を収める箱）や、手水道具、歯黒道具などの一式。鏡台と櫛台、眉作箱にはそれぞれ、数多くの付属品が収められています。



● 歯黒道具 Tooth-Dyeing Set

洗面や化粧をするとき、湯水を入れて使用する道具類です。お歯黒をする際には鍍金という細長い金属板を耳
皿に掛け渡し、歯黒次と濁子（鉄漿〈歯黒の原料〉を溶く器）を乗せて用いました。台に乗った蓋付椀は、口
をすすぐための嗽茶碗です。



● 手水道具 Hand-Washing Set

豊姫婚礼調度のうち

Wedding Dowries of Tokugawa Toyohime

江戸時代・文化13年（1816） H-2806～2810、2813、2814

● 箏 Zither (Koto)



桐製十三弦の箏。磯（側面）は鉄刀木地に竹菱葵紋を木
地蒔絵で表わして象牙で縁取りしています。龍頭（脚の
ついた箏の前方）、龍尾（箏の後方）は金箔地の龜甲貼
とし、色染めした象牙を象嵌して豪華に彩っています。
鉄刀木製の琴柱30個を収める琴柱箱が付属します。



琴柱箱、琴柱